



一般社団法人 大日本武徳会

会報 **武徳**

2023.10 秋季号



「表紙写真…風神雷神と氣合」

氣合の氣は語源的に解釈すると「氣」は雲の流れを表しており、風氣によるエネルギーが大氣を動かす、大氣の雲が衝突して恵みの雨を大地にもたらす、自然界万物の命をつかさどるものとされ、「米」は命を養い弛まなく生命再生の源になりうるかとされています。氣と米を合わせて、ありとあらゆる生命体の活動の源、氣力という意味の「氣」が生まれた所以は古代中国の莊子思想にある陰陽二氣や日本の歴史書がその靈的、生命的氣息の概念として説明しています。伝統武道・武術における氣魄、氣息、氣合は鍛錬する過程において極めて重要であり対峙する己自身の氣位を無心という最上の位置に保つために全身全霊の練磨が必要とされています。

奈良時代の歴史書『日本書紀』では神話世界の伊邪那岐大神が日本列島にかかった朝霧を息で吹き払うと、古代の人々は、「風は神の吐く氣息から生じるもの」と信じ、その氣息が神風となり風神となつたとされています。風神は仏教では勸善懲惡の精神を勧めて暴風雨を鎮静する神としても信仰されています。正に風神の氣魄と氣息は天地を動かす強大な風の氣合となり、唯物的な次元を超えた生命体の根幹となる源の力として大地に注がれます。雷神は雷電、雷公（らいこう）、鳴神（なるかみ）を齋し天空からの陰陽大雲が激突してその刹那に発生する稲妻の雷光を大地につなげるのは宇宙生命体の生成の原理に他なりません。風神雷神の氣合は万物を構成する氣の力が自然界における森羅万象の世界で大氣雲の流れと共にその氣息として無の状態から静かに発せられると想像すれば、武道の世界で発せられる無想無心の氣合も、その瞬間において無限に存在する宇宙の息吹氣息に近づく事が出来るのではないのでしょうか。

濱田鉄心



一般社団法人 大日本武徳会



未来への期待

濱田 鉄心

去る四月二十五日から三十日に渡り京都で開催された第六回世界武徳祭は多くの感動的なインパクトを残して有意義な成果を納める事が出来ました。これもひとえに総裁をはじめとする本会執行部の先生方や会員の皆様の絶大なるご支援とご協力の賜物であると思います。さらにアメリカ支部をはじめとする十八カ国の国際部会員の皆様の熱烈な協力と参加が大きな原動力となりました。

青龍殿国宝青不動明王奉納演武大会で国際部会員は烈火のごとき青不動明王を眼前にして堂々と奉納演武を捧げていた姿が印象的でした。伊勢神宮奉納古武道演武大会では五十鈴川での神聖な手水にはじまり、神楽殿での厳かなご祈禱に続き、参集殿においては全身全霊をこめた気迫にあふれた奉納演武がなされ、最後に参加者一同は神聖なる御正宮において御垣内参拝を精魂込めて体験しました。日本古来の神話の世界に触れることにより和国の精神文化に対して一層の理解がされたことと思われまします。開会式においては彬子女王殿下にご臨席賜り、素晴らしいお言葉を拝聴し一気に大会に向けて気運が高まり、引き続き西脇京都府知事、門川京都市長、東伏見総裁からも素晴らしい祝辞を賜り参加者一同決意を新たにしました。旧武徳殿で開催された第六回世界武徳祭では本部の先生方の素晴らしい日本伝統武道の神髄と卓越した技を目のあたりにして、国際部の参加者にとつて大きな励みとなり、これから一段と精進してくれることを期待します。翌日の国際部錬成大会では世界武徳祭の感動的な余韻が残り、彼らの演武にも気合と氣迫が鋭敏に発揮されておりました。表彰式では本会会員と国際部会員の誇らしげな笑顔とその達成感を共有した喜びが実に印象的でありました。

もとよりコロナ禍の状況が続く中、非常に厳しい世界情勢を乗り越えて多くの会員が多大な犠牲を払って実現した第六回世界武徳祭でありました。そして本会会員の皆様の温かいご支援とご協力で開催が可能となりました。従つて、今回の第六回世界武徳祭の成功は本部と国際部が一丸となつて発揮した堅忍不拔の氣合の成果であると思います。

しかし、その総合的な成果は言葉では十分表現できません。誰もがインヴィクタス、即ちラテン語で負けざる者の精神と言われていますが、その真価をどのように発揮したかはそれぞれが評価する事です。明らかなことはこの世界武徳祭が計り知れないインパクトを国際部の会員に与えた事です。各自がその熱い思いをそれぞれの国と地域社会に持ち帰り一層努力してくれるものと期待します。

二〇二五年はご存知のように本会の創立百三十周年記念です。

その大きな歴史的節目に第七回世界武徳祭の開催を本会役員会で検討しています。さらに二〇二五年は歴史的な節目である終戦八十周年です。本会が武道精神を通じた恒久的な世界平和と相互理解を促進させるためのメッセージを強く発信する重要な年になると思われまします。本会の未来への期待は内外において襲古還新を指標とし、たゆまなく武徳の精神と哲理をいかに実践する事です。私たちの前には常に多くのチャレンジが待ち受けていますが会員一同の皆様の強い結束力で対応すれば必ずやその理想の成果は生まれると確信します。

末尾に総裁陛下を始めとする本会会員の皆様、国際部会員の皆様には本会発展のため格別のご厚情を賜り厚くお礼申し上げますと共に会員の皆様の益々のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。



創立128周年記念 第6回世界武徳祭・第61回全国武徳祭 開会式・祝宴会プログラム

Official Program of the Opening Ceremony
6th World Butoku Sai and 61st Japan Butoku Sai in
Commemoration of 128th Anniversary of DNBK

2023年 令和5年4月28日
京都ウェスティン都ホテル 瑞穂の間
April 28, 2023 Reiwa 5th Year
Westin Miyako Hotel Mizuho no Ma Hall



主催 Sponsored by
一般社団法人大日本武徳会 The Dai Nippon Butoku Kai
大日本武徳会国際部 DNBK International Division
日本教育文化センター アメリカNPO法人 JECC Inc.

後援 Supported by
京都府 Kyoto Prefecture
京都市 Kyoto City
京都新聞 Kyoto Newspaper

開会式次第 Opening Ceremony Venue

16時より開始予定 Starting time 16:00

総合司会：濱上雅子 MC: Masako Hamagami

通訳: Interpreter: Jeffrey Williams

総裁・御来賓入場 Entering of Sosai and Official Guests of Honor

開会式宣言 大会副委員長 竹田 豊 Opening Ceremony Declaration

国旗に礼 黙祷 Rei to the National Flag and Silent Prayers

国歌斉唱 National Anthem

開会挨拶 大会委員長 濱田鉄心 Opening Remarks Tesshin Hamada

開会式辞 大会会長 総裁 東伏見慈晃 Opening Ceremony Address
Sosai Higashifushimi, Jiko

来賓祝辞

特別御来賓 彬子女王殿下 Special Guest of Honor,
Her Imperial Highness, Princess Akiko

京都府知事 西脇隆俊 Governor of Kyoto Prefecture, Takatoshi Nishiwaki

京都市市長 門川大作 Mayor of Kyoto City, Daisaku Kadokawa

宣誓 Pledge Declaration of Participants

日本代表 渡邊祥正 Shosei Watanabe, Japan

国際部代表 ゼッド・メコ Zed Meko, DNBK International Division

表彰 Recognitions

京都府知事賞 Kyoto Governor Award
松本秀邦 Carl Long

京都市市長賞 Kyoto Mayor Award
中森茂範 Roger Payne

京都新聞賞 Kyoto Newspaper Award
中田浩大 Ken Tallack

武徳荣誉賞 九段・十段保持者 Butoku Illustrious Merit of Honor Award

辻野正勝 Masakatsu Tsujino 山口峻輝 Takateru Yamaguchi

柳田邦治 Kuniharu Yanagida 杉野至寛 Yukihiro Sugino

中田武太 Takeo Nakada 深野良興 Yoshioki Fukoono

前田 誠 Makoto Maeda 宮園國男 Kunio Miyazono

武徳騎士賞 Butoku Knight Award

竹田 豊、Hubert Thomas

武徳青少年育成功労賞 Butoku Dedication Award for Youth Program

上村雅彦、Codruta Rechesan

総 裁 賞 Sosai Award

藤井正巳、Steve Mahan

理 事 長 賞 President of DNBK Award

長田順一、小松秀敏、渡邊佳代子、山田文典、北野隆雄、坂本俊一、
北川茂、Bruce Scrivens, Pete Stinger, Kevin Walsh,
Jean Piere Cortier, Lucien Forni, Robert Dejardin

武徳国際平和賞 Butoku World Peace Award

DNBK ID – Kim Baylor on behalf of ID groups.

国際武徳優秀賞 International Butoku Outstanding Leadership Award

DNBK ID Official Representatives, Coordinators and Selected Dojo Heads:
Christian Bajada, Roderick Bajada, Sylvain Berthiaume, Richard Mark, Larry
King, Jeff Hastings, James Rooney, Mike Selvey, Jose Araujo, Danladi Whitten,
Michael Boyle

国際武徳奨励賞 International Butoku Leadership Commending Award

High Title Holders and those individuals who made commending contributions in
DNBK ID development for substantial period:

Robin Ramirez, John Lawton, Nigel Tew, George Lymbouris, Jeff Williams, Bruce
Myers Jr, Pete Steinbeck, Kako Lee, Bjorn Fehr, Alain Faucher, Sun Woo
Delneufcourt, Franz Knafl, Shawn Zinnen, Ron Davis, Robert Davis, Lorrain
Heilman, Steven Emmanuel, William Moore, Joseph Robert, Steve Dorion, Robert
Tallack, Leanne Walsh, Barry Vant-Hull, Margarita O'Hargan, Zed Meko, Hollie
Kumpaitis, Keith Rossmiller, Bruce Myers Sr, Motoya Nakamura, Sheldon Tenia,
Michael Daniel, Chris Backus

武徳功労賞 Butoku Meritorious Service Award

山本楠城、山本勇、落合春彦、道観世宗慶、大沼州彦、花元浄一、齋木泰徳、
安藤貞夫、二又静明、東出廣志、田中天心、杉生闡祐、木下公子、松村則夫、
市村章、安藤肇、樋口友視、高島伸幸、平林裕蔵、平松男、村上亨、渡邊祥正

閉 会 の 辞 大会委員長 濱田鉄心 Ending Remark Tesshin Hamada

閉 会 宣 言 大会副委員長 竹田 豊 Ending Declaration Yutaka Takeda

記 念 写 真 Official Commemorative Photos

ご挨拶

一般社団法人大日本武徳会
総裁 東伏見 慈晃



この度、創立128周年記念第6回世界武徳祭及び第61回全国武徳祭が、明治時代創建の由緒ある、旧大日本武徳会武徳殿において盛大に開催されますことは誠に嬉しく慶賀に堪えません。

1998年（平成10年）、第1回世界武徳祭がアメリカ合衆国ノーホーク バージニア州で盛大に開催され、爾来25年の歴史を刻み第6回を迎えることは、感慨無量であります。

当会は1953年（昭和28年）に戦前の大日本武徳会を継承して再開し、現在国内外に多くの武道家が活発に活動しておりますことは、誠に喜ばしいことであります。

今日まで、多くの献身的な武道家の先生方の文字通り血の滲むご努力の結果、日本国内はもとより、全世界に日本武道が広められました。

「技と精神を磨く」「礼節を尊び徳をもって武を修める」という武徳会の武道の精神が、世界中の多くの方のご理解を得たものと思います。

その結果として、ここに世界18カ国500人近く of 武道家のご参加を得ることができ、日本武道を広められた先生方のご努力に敬意を表するとともに、ご参加されました世界の武道家の皆様に心から歓迎と感謝を申し上げます。

また、本大会開催準備のため、本部を中心に全国役員の諸先生方には、大会の企画運営等献身的なご尽力を賜り厚く御礼申し上げます。

今、ロシアのウクライナ侵攻の他、世界のいたるところで宗教や民族間の紛争が絶えない中で、日本武道に精進され同じ道を歩む人々が、相互の信頼と親交を深めあうことによって世界の平和に貢献できることを信じるものであります。

この大会で得た感動と友情を永く持ち続け、武道の精神と技が益々多くの人に広がり発展していくことを強く念願いたします。

ご参加の先生方の道場の益々のご発展と、皆様のご健勝とご多幸を祈念いたします。

ご挨拶

一般社団法人大日本武徳会
代表理事 濱田鉄心



第6回世界武徳祭及び第61回全国武徳祭が世界18カ国からの参加者と共に京都旧武徳殿において盛大に開催されます事は慶賀の至りです。

1998年に第1回世界武徳祭がアメリカ合衆国において開催されて以来、4年おきに開催されてきました。3年前の世界的なコロナウイルス・パンデミックの為、第6回世界武徳祭は今日まで延期されてきましたが、ようやく実現の運びとなりましたのは多くの会員の皆様の絶大なるご支援とご協力の賜物であります。

世界各国からそれぞれに志を持つ武道家が集結し日本の伝統武道を通じて国際親善、国際的な相互理解、そして国際平和に貢献できることは大きな喜びです。この記念すべき歴史的な大会において共に分かち合える感動と体験は一生涯の心の宝として残るに違いありません。

本大会において日頃鍛錬された日本伝統武道の静と動の美が存分に発揮されその神髄と奥深さが理解されると共に相互の武道を通じた国際交流がかけがえのない友愛と絆の礎となることを期待致します。

最後に本大会に向けて著名な方々の祝辞を頂戴し感謝の言葉もございません。本大会の実現に向けて精力的なご尽力、ご協力賜りました皆様に対して心から厚くお礼申し上げますと共に皆様の益々のご壮健とご活躍をお祈りいたします。



第6回世界武徳祭・第61回全国武徳祭 祝宴会

ウェスティン都ホテル 瑞穂の間

令和5年4月28日 18時00分

主催

一般社団法人大日本武徳会

Commemorative Celebratory and Special Evening Reception in the Sixth World Butoku Sai and Sixty First Japan Butoku Sai

Mizuho no Ma Banquet Room, Westin Miyako Hotel

6PM April 28, 2023

Sponsored by

The Dai Nippon Butoku Kai,
General Incorporated Association

祝宴会式次第

Commemorative Reception Venue

瑞穂の間 Mizuho no Ma Hall

18時開始予定 20:00 Starting

総合司会：濱上雅子 MC: Masako Hamagami

通訳：ジェフ・ウィリアムズ Interpreter: Jeffrey Williams

御来賓ご入場 Entering of Official Guests of Honor

開会挨拶 大会会長 総裁 東伏見慈晃

Opening Remarks: Higashifushimi, Jiko, Sosai

開会祝辞 京都府知事 西脇隆俊

Congratulatory Remark: Takatoshi Nishiwaki, Governor of Kyoto Prefecture

乾杯音頭 京都市市長 門川大作

Kanpai Cheers: Daisaku Kadokawa, Mayor of Kyoto City

18：10－19：20：祝宴：懇談 Dinning and socializing

19：20—19：40：春乃流 日本舞踊 Performance of
Traditional Japanese Dance of Nihon Buyo, Hatu no Ryu

閉会の辞 大会委員長 濱田鉄心

Closing Remark: Tesshin Hamada, Taikai Chairperson

祝宴会の閉会宣言 大会表彰副委員長 上村雅彦

Ending Declaration: Uemura Masahiko, Taikai Vice-Committee Chair

御来賓ご退場

Departing of the Guests of Honor

創立一二八周年記念

第六回世界武徳祭・第六一回全国武徳祭開会式・祝宴会結果報告

一般社団法人大日本武徳会 理事 山田 文典

一 開会式

(一) 開催日時

二〇二三年 令和五年四月二八日午後四時から

(二) 場所

京都ウエスティン都ホテル 瑞穂の間

(三) 式次第

総裁・御来賓入場、開会式宣言、国旗への礼、黙禱、国家斉唱、開会宣言、開会式辞、来賓挨拶（特別御来賓・彬子女王殿下、来賓・西脇京都府知事、門川京都市長）、宣誓（日本代表、国際部代表）、表彰（京都府知事賞、京都市長賞、京都新聞社賞、武徳栄誉賞、武徳騎士賞、武徳青少年育成成功労賞、総裁賞、理事長賞、武徳国際平和賞、国際武徳優秀賞、国際武徳奨励賞、武徳功労賞）、閉会の辞、閉会宣言、記念撮影

(四) 総括

本開会式は、コロナ禍の大きな試練をくぐり抜け、二〇二〇年開催予定であった本大会が、多くの国際部武道家の参加により盛大に開催できることを大変意義深いものとなった。

特別御来賓として御成り賜りました彬子女王殿下の御祝辞の中に「戦争やミサイルの発射等、不安の多い国際社会において、武道を通じて平和とは何かを考える機会となった。古武道を現代に継承していくことを意味や世界平和を考えるきっかけになることを祈ります。」とのお言葉に会場全体が感銘とともに、気の引き締まる感動を受けたものとなった。

二 祝宴会

(一) 開催日時

二〇二三年 令和五年四月二八日午後六時から

(二) 場所

京都ウエスティン都ホテル 瑞穂の間

(三) 式次第

御来賓入場、開会挨拶、開会祝辞（京都府知事）、乾杯音頭（京都市副市長）、祝宴・懇談、春乃流 日本舞踊、閉会の辞、祝宴会の閉会宣言、御来賓退場

(四) 春乃流日本舞踊

家元 春乃櫻香が平成一八年に若柳流から京都で創流以来、京都東山、八坂神社、二条城、京都府庁等で活躍中

(五) 総括

開会式の厳肅さから雰囲気は華麗、親和ムードに変化し、武道を通じて結ばれた本会本部出席者と国際部武道家の語り合う友情の場となった。祝宴会後半に披露された春乃流日本舞踊に魅了された外国人からの熱烈な拍手から明日に控えた第六回世界武徳祭に向けた静かな闘志の高まりも感じられる素晴らしい祝宴となった。

「第六回世界武徳祭ならびに第六十回全 国武徳祭開会式に参加して」

日本古武道 辰慶館 渡邊 祥正

大日本武徳会第六回世界武徳祭ならびに第六十回全国武徳祭の開会式が令和五年四月二十八日、三笠宮寛仁親王殿下第一女子・彬子女王殿下の御臨席の許、山紫水明の都、京都東山に佇むウエスティン都ホテルに於いて、世界十八カ国から五百有余名の会員が参集して盛大に開催されました。

大日本武徳会は、皇室を真中に仰ぎ慕い来て、崇高なる武士道精神を培う国内外の多くの武道家の歩みによって伝統武道の心と技を受け継ぎ守り継ぎ、数限りない人々の篤い祈りとともに今日まで継承されてまいりました。これまでの活動の意義と効果が広く認知され、このたび世界武徳祭の開催にあたり、世界各国の国賓公賓から数多くの御祝福のメッセージが寄せられました。女王殿下をはじめ御来賓の方々を多くの皆様と共に迎え出しましたことは、奉賛の誠心によるものとこの上ない喜びでございました。

「瑞穂の間」で催された式典は、彬子女王殿下の御入場を列席者全員が拍手でお迎えし、続いて国歌を斉唱いたしました。式辞では大会会長の東伏見慈晃総裁から第六回世界武徳祭ならびに第六十回全国武徳祭の式典を挙行できたことへの感謝を述べるとともに、大日本武徳会の歴史を振り返りながら、先達者の労苦と武徳の精神に込められた思いを語られました。また大会委員長の濱田鉄心代表理事から「国際親善、国際的な相互理解、そして世界平和に貢献する」との力強い決意が述べられました。

続いて、女王殿下は「おことば」のなかで、「日本の伝統的な古武道を通じて、日本文化の伝承、青少年の健全育成、世界平和や国際親善に寄与する活動を積極的に取り組んでいることは大変意義深いこと」と述べられ、「大日本武徳会が国際社会の平和や安定への積極的な貢献に大きな役割を果たす」ことへの期待が寄せられました。伝統武道の真の継承者としての世界中の武道家に深い感動と大きな希望、そして新たな使命を与えていただきました。その後、公務御多忙な中を御出席いただいた西脇隆俊京都府知事、門川大作京都市長の御来賓から、これ

までの活動に対する高い評価をいただくとともに、今後の国際社会における大日本武徳会への期待が込められた祝辞を頂戴しました。主催者、御来賓の挨拶に続き、選手宣誓、主催者側から大日本武徳会の運営発展に尽力し、伝統文化・武道の普及促進において多大な貢献が認められた功労者への表彰が行われ、式典は閉式されました。

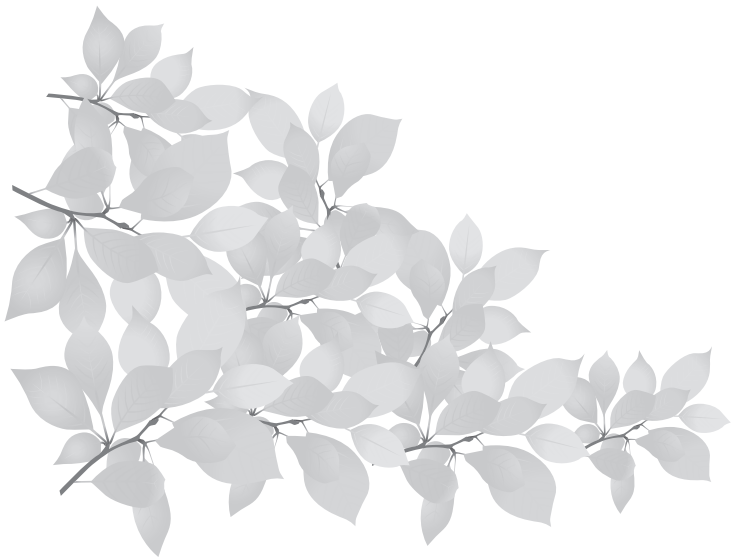
式典に続き、「瑞穂の間」にて祝賀会が開催され、引き続き彬子女王殿下の御臨席を仰ぎ、東伏見慈晃総裁のあいさつの後、西脇隆俊京都府知事の来賓祝辞、門川大作京都市長による乾杯の発声で開宴しました。祝宴会は春乃流日本舞踊のパフォーマンスで祝宴に華を添えられました。終宴にさしかかる頃、濱田鉄心代表理事が謝辞を述べられ、祝宴会は閉会となりました。

女王殿下の世界武徳祭への御臨席は、平成二十七年四月以来七年ぶり二度目の御事となりました。女王殿下にはウエスティン都ホテル前に御着、玄関にて、濱田鉄心代表理事、渡邊佳代子理事と共に御出迎えし、館内へお入りになられました。式典会場にご入場。女王殿下の御前を濱田鉄心代表理事が前行申し上げ、御後に供奉副従申し上げました。この式典において図らずも女王殿下の御前で供奉副従、選手宣誓の大役は、誠に恐懼感激の極み、この上ない栄誉を得られ、喜びと重責に身の引き締まる思いで拝命いたしました。畏くも女王殿下への拝謁の御許しは、望んでも叶えられないことではなく、ただただ御縁に結ばれて御奉仕させて戴けた有り難さに感慨無量でございました。この特別な時間を大日本武徳会の将来を担う世界各国の皆様と宗教、信条、国籍、世代を越えて共有できましたことは、かけがえのない経験となりました。選手宣誓は、参加した会員はもとよりコロナ禍によって参加の叶わなかった全ての方々の熱き思いを全身全霊に受けながら、この世界武徳祭が威厳と誇りに満ちた大会となるよう明き浄き直き正しき真心を以て、国際部代表ゼッド・メコ氏と共に言霊込めて力強く宣誓させて戴きました。日章旗、武徳会旗の下、女王殿下の凛とされた御姿を拝し、その面持は優美で温かく御前に居る自分は嬉しさと緊張で心身が震え、胸がいつぱいで、式典の間、神々しい幽玄の世界に齎行されていますような時空を越えた感覚に包まれ、神の懐に抱かれた至福の瞬間となりました。感動的で私の人生史にかつて無い名状し難いものとなりました。女王殿下は前回大会の「おことば」のなかで「日本の武士がつかないできた武道のころ、礼の精神を多くの方々に守り伝えられること」に期待を寄せられました。礼の精神は人間関係を円滑にし、社会の秩序を保つための人として最も正しい倫であること。御心を心として生きることが、世界

中の国々人々が家族のように心を許し、尊び合い、助け合っていていく方法なのだと述べられました。私たちの使命であり、会員の胸に深く刻まれています。この世界武徳祭を通して係わり結ばれ、美しい国日本のこころ高潔なるサムライ魂を共有して、未来に生かせる子孫の繁栄のために歴世の祖先が伝え繋いできた誇りある伝統に則り、伝統武道の文化が息づく、この京都の地からその底知れない活力を世界に波動させることが、精神的伝統武道、日本人の遺伝子の活力を現在そして未来に生かされ甦らせるものと確信いたします。本大会は、日本武道の聖地・京都旧武徳殿での開催となりました。国際部会員は、先に日本国民の総氏神と仰ぐ「天照大御神」を祀る伊勢神宮内宮に参詣し、聖寿の萬歳と御皇室の弥栄、国家国民の繁栄と安寧、そして世界武徳祭の成功と結ばれる世界各国の武道の友の平安、更には北朝鮮のミサイル発射、ロシアによるウクライナへの悲惨な侵略戦争をはじめ国際紛争の即時終止、また国内外の自然災害により被害に遭われた方々の一日も早い復興を併せて祈られ、特別大々神楽を奉納後、春の爽やかな空気に木漏れ日が差す、凜とした空気の中で、御正宮・皇大神宮瑞垣内にて参拝されました。続いて古武道演武大会が催され、演武の奉納がなされました。国際部会員は、終始無言整列して参進。大鳥居をくぐり、宇治橋を渡り、五十鈴川にて身を浄め、本大会ならびに錬成大会に備えました。

本大会は、二〇二〇年の開催を目指しておりましたが世界規模の新型コロナウイルス感染症の拡大は、国境の隔たりなく、さまざまな分野に影響を与え、各地域、社会活動が相次いで延期や中止になり、大日本武徳会におきましても延期という大きな決断を余儀なくされました。延期決定後は、開催に向けて感染症の感染状況を注視しながら万全の感染防止対策を講じるための協議が重ねられ、本年ようやく開催の運びとなりました。この大会に参加される世界の方々を精いっぱいのおもてなしでお迎えするために、あらゆる事例を想定し、全てに対応できるように、きめ細かに幾度となく調整を図り、迅速な対応を心掛けられ、多くの時間と心を砕いてこられました。そのご努力があつての大会の実現であり、濱田代表理事をはじめ理事・役員の方の献身的な活躍があつたからこそその成功裡であつたと実感いたします。大日本武徳会の今日に至る先人たちの歩みに思いを致し、永く重い歴史の一員に連なりなることができた幸せに万感の思いが込み上げてまいりました。この大会において先生方の適切な助言とご協力を賜り、お役目を果たし得たことは誠に有り難く、今後世代を問わず多くの方々は大日本武徳会の存在と歴史、高潔なる武徳の精神、武士道の意義を丁寧にご説くことによつて、

より多くの人々の心が寄せられ、諸民族の開放と和親とを図り、万邦の協和に貢献し、世界平和の礎、国際親善に寄与する大愛の涵養につながるとものと思料いたします。この伝統を未来へ継ぎ伝えていく者のひとりとして先人たちの思いを受けながらお仕えさせて頂きました。大きな喜びと誇りを感じております。これからも只管に至誠を尽くして修練に励み、以て日本の美・武士のこころ、礼の精神を次の世代へ伝えていかなければならないと一般社団法人大日本武徳会の発展を祈つてやみません。このたびは大会参加の御許しをいただき、心から感謝し御礼申し上げます。



知事賞

第六回世界武徳祭及び
第六十一回全国武徳祭に参加して

貫心流 松本 秀邦

新型コロナウイルス感染症対策が緩和され、三年ぶりに盛大、成功裡に開催されました。貫心流から、松本秀邦、上田峻平、石田隆、守山健三、安食敬太の五名が参加しました。

開会式では、挨拶を大会委員長の濱田鉄心代表理事、式辞を東伏見慈晃総裁がされました。御来賓として、彬子女王殿下、西脇隆俊京都府知事、門川大作京都市長を迎え、盛大に始まりました。新型コロナウイルスが落ち着き、このように盛大に始まったことがうれしく、気分が入りました。

開会式後、各国演武が始まりました。世界十八カ国が参加し、緊張感の中、立派な演武が続きました。二十七番目に、私達貫心流の出番でした。多くの観客の前で、大変緊張しましたが、練習の成果が出せるよう集中し演武しました。新人の安食敬太が半年間の練習の中、しっかりと覚え演武し、全体の踏ん張りのきいた演武につながったと思います。

結果、団体の優秀賞は貫心流、個人の京都府知事賞は私、松本秀邦、努力賞は上田峻平でした。大変良い成績を頂き、感慨深く感じました。継続すること、努力することの大切さを改めて感じました。



武徳栄誉賞

第六回世界武徳祭及び
第六十一回全国武徳祭に参加して

日本武道石神剣友会 代表 深野 良興

この度は、創立百二十八周年記念第六回世界武徳祭及び第六十一回全国武徳祭に日本武道石神剣友会代表として参加させて頂きました。

新型コロナウイルス流行により大会が延期されて来ましたが四月二十八日、武徳祭祝宴会には数百人の参加、ウエスティン都ホテルで開催、大日本武徳会の先生方はじめ世界十八カ国より武道家が一堂に会し一般社団法人大日本武徳会東伏見慈晃総裁、濱田鉄心代表理事の挨拶にはじまり、日本舞踊拝見、祝宴会が進むなか一般社団法人大日本武徳会に貢献した方々に表彰が授与されました。

私も選任いただき表彰の中に入り『武徳栄誉賞』を授与されましたので深く感謝申し上げます。

日本武道は戦国時代から伝わり、身を守る技として受け継がれて、礼から入り礼に終わる道徳を重んじる真髓を伝えて来ました。今後は伝統武道を青少年育成はじめ一般男女に真髓を促進し、世界の平和維持活動に貢献出来る事を願っています。

武徳騎士賞

武徳騎士賞を賜る

竹田 豊

令和五年四月二十八日、京都ウエスティン都ホテル・瑞穂の間で開催されました創立百二十八周年記念 第六回世界武徳祭・第六十一回全国武徳祭開会式に於いて、御公務にて御成りを賜りました三笠宮の彬子女王殿下ご臨席のもと、この度私は武徳騎士賞を賜りました。感慨もひとしおでこのうえない光栄の至りであ

ります。これもひとえに本会諸先生方の御厚情の賜物と心より感謝申し上げます。先々代から技の本質を観る眼を養うことが第一であると、常々言われておりました。

本質を観る眼を養うとは基本を大切に正しく技を稽古鍛錬することと考えます。終わりなき道、更に精進を重ねてまいる所存です。

総裁賞

創立百二十八周年記念・第六回世界武徳祭・第六十一回全国武徳祭において総裁賞を頂いて

至誠館 藤井 正巳

このたび百二十八周年の記念大会の第六回世界武徳祭・第六十一回全国武徳祭において、このような大変名誉ある賞を受けたことは、私自身にとっても本当に意外で、私ごときに、このような賞が頂けたことに身が震える思いがしました。

これもひとえに私共を応援してくださる先生方、濱田代表理事、竹田理事、山田理事、渡邊理事、上村理事、中田理事、坂本監事、平監事はじめ本部の先生方のおかげであると大変感謝しております。

さらに、当道場は整備も不十分な中、会員全員の努力と真摯な姿勢で頂いた賞だと感じております。これは道場全員での受賞だと思っております。

特に、今年の大会は、アメリカ、フランス、ルーマニア、イギリスなどの海外の優れた武道家の皆様も参加され大変有意義な大会であり、皆様方の演武に、感動し多くのものを勉強させていただきました。

私共、至誠館道場は、精神的な面に重点を置き、日々努力しており、技についても状況を考えた歴史にまで遡り日々研究しております。

まだまだ道場として未熟な域を脱しませんが、それぞれが努力し、おたがいが助け合っております。このような時期に、このような立派な賞を頂けたことは私自身凄い励みになっております。

このような賞を受賞し、これを機に更なる地道な努力と鍛錬を積み重ねてまいります。

そして、当道場だけのことでなく本会のさらなる発展のため少しでも貢献でき

るよう努力してまいります。

最後に、今回このような立派な大会を成功へと導かれました諸先生方、並びに大会を成功に導いた濱田代表理事はじめ諸理事、監事の皆様方におおなる感謝をするとともに、一般社団法人大日本武徳会並びに国際部の益々の隆盛をご祈念申し上げます。

理事長賞

「理事長賞を受賞して」

古武道唯心会
代表

小松 秀敏

今回の大会にて、理事長賞受賞と平安神宮での奉納演武をさせてもらうことができ誠に有難うございました。振り返れば三十五年間居合をしてきてよかったです。武徳会に入会し、入会後の初めての武徳祭に参加して各種武道の神髓に触れたことに感動したことを覚えております。また目黒先生が逝去し唯心会の代表として責任を感じ、更なる稽古に精進してきたつもりです。コロナ禍でなかなか全員での稽古ができない中、目黒先生ならどうしただろうかと、どう人に教えることができるか、この技の理合いは何かと、自問自答し常に自分との葛藤に悩む日々でした。今回の世界武徳祭及び全国武徳祭で、理事長賞受賞と平安神宮での奉納演武をさせてもらったのは最終ではなく、更なる上を目指した出発点であり、唯心会と大日本武徳会のために更なる精進と貢献に努力していきたいと決意し、目黒先生の御前に報告させていただきました。

一般社団法人大日本武徳会創立百二十八周年記念 第六回世界武徳祭及び第六十一回全国武徳祭に参加して

国際部 坂本 俊一

この度、創立百二十八周年記念第六回世界武徳祭及び第六十一回全国武徳祭に国際部の一員として参加させていただきました。

私は、学生の頃バージニア州で濱田鉄心先生の門下生として空手道を修練いたしましたことから、今回の世界大会で事務局としても中心的な役割を果たしてくれた、バージニア州ノーフォークの武心館道場生六十有余名とともに、本大会において演武するに至ったというわけです。

四月十八日から、武心館の皆さんと武徳殿で毎日稽古し、二十三日からは平安の森ホテルに泊まりこんで彼らと行動を共にしてまいりました。チームを率いる役割をいただいておりましたので大変不安ではありましたが、ホテルに泊まりこんだおかげで、チームとして本当の意味で一つになれたと感じました。また、彼らも私という日本人を受け入れてくれ、武道を通じた同じ目標を持つ同志として泣き笑いできたことは、私にとっても掛け替えのない経験となりました。

私は、大会を通じて、個人型二回、団体型二回の計四回演武する機会をいただき、結果は、理事長賞・団体優秀賞・個人優秀賞を頂戴したのですが、何よりも団体優秀賞が嬉しかったことは言うまでもありません。四月二十九日の本大会での団体演武は、全員がゆったりとした流れの中で気迫のこもった型を演武でき、みんな揃ってピシッと決めることができました。更に翌日の国際錬成大会でも、初めて一緒に演武する仲間がほとんどでしたが、心が通じ合っていれば型もある程度は整うもので、これほど気が揃うとは思ってもみませんでした。それほど彼らの情熱は素晴らしいものだったということでしょう。指導していた私が一番勉強したのではないかと思うほどでした。

大会を通じて、参加された皆さんの武道に対する気概、日本人が忘れかけている「純粹に武道を愛する気持ち」を直に感じることで、いろいろと考えさせられた二週間でした。

また、この度は役員として青龍殿にける青不動明王奉納演武大会及び国際錬成大会でMCを仰せつかり、躰きながらも大役を果たしたのは私にとって大変いい

経験になりました。ありがとうございました。

今後とも、本会の発展にできるだけ寄与できるよう努めるとともに、二年後の第七回世界武徳祭に向け、更なる精進を重ねてまいる所存です。どうぞよろしくお願いたします。

以上

理事長賞を受賞して

弓刀錬心館道場
代表

北川

茂

コロナ禍で開催が延び延びになっておりました「第六回世界武徳祭」「第六十一回全国武徳祭」の開会式において、濱田鉄心代表理事から理事長賞を頂く栄誉にあずかりました。日本伝統武道の発展に大きな貢献を印したとの事ですが、平成二十年に我が弓刀錬心館道場が大日本武徳会の公認道場として登録を認められ、以降十五年間の活動実績しかございません。

私は現在七十二歳で、本業である将棋道場の運営と日本将棋連盟の棋道師範、日本将棋連盟大阪府支部連合会の名誉会長、西日本将棋道場連合会の会長職も兼任しており、弓刀錬心館道場の運営指導には片手間程度しか携われてはおりません。

この状態はまだ当分続く予定で、大日本武徳会にはほんの小さな貢献しか出来ませんが、これからも出場可能な演武会等で頑張つてまいります。



第6回 世界武徳祭

第61回 全国武徳祭

日時 令和5年4月29日（土・祝）

午前9時00分

場所 京都市武道センター・旧武徳殿

主催 一般社団法人 大日本武徳会

後援 京都府 京都市 京都新聞

大 会 次 第

◎ 平安神宮祈願祭 4月29日午前8時10分より

平 安 神 宮

修 祓		
玉 申 奉 納	大 会 委 員 長	濱 田 鉄 心
奉 納 演 武	居 合 道 教 士 七 段	小 松 秀 敏

開 会 午前9時00分開始
総合進行委員長：藤井正巳

総 裁 ・ 来 賓 入 場		
開 始 宣 言	国 際 部 進 行 委 員 長	坂 本 俊 一
優 勝 旗 の 返 還	一 心 無 双 流 居 合 道 剣 心 会	山 田 文 典
個 人 最 優 秀 賞 杯 の 返 還		高 島 伸 幸
演 武 上 の 注 意	大 会 検 証 委 員 長	竹 田 豊
祓 い の 儀	居 合 道 範 士 八 段	山 本 楠 城

演 武

国 際 部 演 武		
本 部 古 武 道 演 武		
納 め の 儀	居 合 抜 刀 術	濱 田 鉄 心

閉 会 式 午後5時30分

選 手 整 列		
表 彰	大 会 会 長	東 伏 見 慈 晃 総 裁
講 評	大 会 検 証 委 員 長	竹 田 豊
閉 会 の 辞	大 会 委 員 長	濱 田 鉄 心
三 本 締 め	大 会 委 員 長	濱 田 鉄 心
閉 会 宣 言	大 会 管 理 運 営 委 員 長	山 田 文 典
閉 会 の 礼	大 会 進 行 委 員 長	藤 井 正 巳
記 念 撮 影		

大会終了後武徳殿において記念撮影をします。

※当日演武場内での携帯電話の使用禁止。場内外からの動画・カメラ等も撮影禁止。
 ※本会が定めた写真班が当日記録用に撮影いたします。
 ※本会が定めたコロナウイルス感染予防対策にご理解頂き、ご協力お願いいたします。

第6回世界武徳祭・第61回全国武徳祭 表彰

団体最優秀賞

大阪府 弓刀錬心館道場

団体優秀賞 【七団体】

島根県 古武道 貫心流
 京都府・滋賀県 一心無双流居合道 剣心会
 京都府 日本武道空手協会
 三重県 古流無双直伝英信流 神和会
 石川県 北陸連盟修童館
 大阪府 誠道館 虚心流居合剣法
 大阪府 日本古武道 武公館道場

団体奨励賞 【四団体】

兵庫県 正統無双直伝英信流居合兵法 日本古武道直心会
 大阪府 神伝円心流
 徳島県 誠正館
 長野県 古武道唯心会

団体努力賞 【九団体】

愛知県 日本戸山流居合道
 大阪府 日本古式武道協会 拳正会
 京都府 正守和道塾
 大阪府 日本古武道 誠慧塾
 茨城県 水府流
 京都府 至誠館
 千葉県 日本伝千葉一心無双流居合兵法 千葉剣心会
 大阪府 日本古武道 晟慶館
 大阪府 素心流居合抜刀術

招待団体特別賞 【五団体】

鹿児島県 NPO法人薬丸自顕流 顕彰会
 京都府 登龍館道場
 大阪府 明心館
 三重県 新陰流兵法 碧燕会
 大阪府 関西大学体育会 古武道部

個人最優秀賞 桑原兵充杯

大阪府 誠道館 虚心流居合剣法 山本 楠城

個人賞

優秀賞 【十七名】

愛知県 日本戸山流居合道 成田 守
 京都府 日本武道空手協会 道観世宗慶
 大阪府 日本古式武道協会 拳正会 田中 天心
 大阪府 沖縄又吉古武道 光道館 大阪堺守礼館 村山 盛哲
 大阪府 神伝円心流 森内 一藏
 京都府 土佐伝承無双直伝英信流 理法塾 松村 則夫

千葉県	双水執流武尊会	伊藤 學
石川県	北陸連盟修童館	井本 敏弘
茨城県	水府流	落合 春彦
長野県	古武道唯心会	平林 裕蔵
大阪府	日本古武道 武公館道場	木下 公子
神奈川県	天真正伝香取神道流	岩田 一政
神奈川県	天真正伝香取神道流	樋口 勉
京都府	至誠館	平 松男
千葉県	日本伝千葉一心無双流居合兵法	千葉剣心会 村上 亨
大阪府	日本古武道 晟慶館	渡邊 祥正
京都府	日本武道空手協会	二又 静明

奨励賞 【十三名】

京都府・滋賀県	一心無双流居合道 剣心会	川崎 竹藏
京都府	日本武道空手協会	花元 浄一
兵庫県	正統無双直伝英信流居合兵法	日本古武道直心会 石本 一平
石川県	北陸連盟修童館	榎田 正博
京都府	剛柔流	渡邊 勉
大阪府	神伝円心流	橋本 御
大阪府	弓刀錬心館道場	浦上 則國
石川県	北陸連盟修童館	東出 廣志
福岡県	無双直伝英信流	杉生 闡祐
徳島県	誠正館	檜野 正
大阪府	日本古武道 誠慧塾	樋口 友視
大阪府	心傳流柔術	野村 功山
大阪府	誠道館 虚心流居合剣法	山本 勇

努力賞 【二十五名】

島根県	古武道 貫心流	上田 俊平
愛知県	日本戸山流	横山 達也
京都府・滋賀県	一心無双流居合道 剣心会	前田 重男
京都府・滋賀県	一心無双流居合道 剣心会	小田 尚幸
京都府・滋賀県	一心無双流居合道 剣心会	中野 秀人
京都府	日本武道空手協会	安藤 貞夫
京都府	日本武道空手協会	佐藤 哲治
兵庫県	正統無双直伝英信流居合兵法	日本古武道直心会 中 恒夫
兵庫県	正統無双直伝英信流居合兵法	日本古武道直心会 鴻上 高
石川県	北陸連盟修童館	中森 順子
石川県	北陸連盟修童館	長田 妙子
東京都	松濤館流	土屋 恭之
大阪府	日本古式武道協会拳正会	岡田 豊
大阪府	神伝円心流	渡辺 円裕
大阪府	神伝円心流	前田 宣伸
大阪府	弓刀錬心館道場	渡辺 宏
大阪府	有馬新當流	西村 悟
茨城県	水府流	落合 剣匠
長野県	古武道唯心会	内藤 誉
大阪府	誠道館 虚心流居合剣法	平田 与一
京都府	至誠館	沖田 茂宏
千葉県	日本伝千葉一心無双流居合兵法	千葉剣心会 杉原 陽一
千葉県	講道館柔道	藪崎 聡
大阪府	日本古武道 武公館道場	恩田 忍
徳島県	誠正館	岩井 孝夫

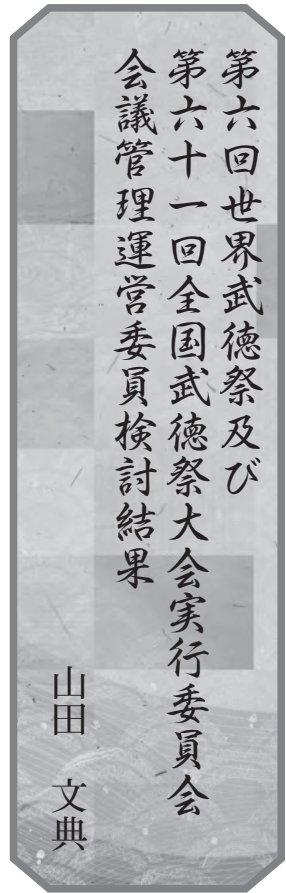
第6回世界武徳祭及び第61回全国武徳祭











一 日時

令和五年四月二十八日（金）午前九時四十五分から午後一時四十五分まで

二 場所

ウエスティン都ホテル 愛宕の間

三 出席委員（管理運営委員…敬称略）

北野隆雄、山本勇、長田順一、中森茂範、田中天心、小田尚幸、中野秀人及び山田文典
副委員長坂本俊一は、国際部会議出席

四 会議内容

- (一) 管理運営委員長指示事項
役割と責務（説明資料）
武徳殿内外の安全確保
大会申し合わせ事項再確認
- (二) 委員配置表に基づいた具体的実施内容検討
変更事項確認
交代時の礼節
固定班と流動班の連携強化
衛生管理
外国人用大型スリッパの配置
消毒液の入り口設置
扇風機での換気

五 実技研修

- (一) 委員の交代要領
- (二) 演武時の礼法
- (三) 有事の際の対応要領 等
- (四) 不審者（盗撮）対策
階段が絶対防衛ライン 上へ上げさせない↓看板設置
不審者発見時は、委員長、副委員長に即時報告↓組織対応を実施
- (五) 有事を想定した対応要領の具体的検討（想定演習）
負傷事案
不審者対応
部外者の立ち見、撮影対策



以上

最優秀団体賞

団体最優秀賞を受賞して

弓刀錬心館道場
代表 北川 茂

この度開催されました「第六回世界武徳祭」「第六十一回全国武徳祭」において、弓刀錬心館道場は団体最優秀賞を受賞する僥倖に恵まれました。

思い起こせば平成二十六年に第一回目の団体最優秀賞を正統無双直伝英信流が獲得されました。その時から弓刀錬心館道場では「いつの日にか、あの旗を獲得しよう」を合言葉に研鑽してまいりました。本来単演が主体であった居合道に、組太刀を取り入れ、修練者にも見学者にも分かり易く理解ができる工夫をしてまいりました。また演武では、周りの見学者が演武を見やすいように配慮した位取りをしています。

弓刀錬心館道場の館員一同、今の技術レベルを維持し、更なる向上を目指す所存でございます。皆様方にはご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。最後になりましたが、一般社団法人大日本武徳会の運営者の皆様には厚くお礼を申し上げますと共に、弓刀錬心館道場の演武者の皆様には心から感謝いたします。

団体優秀賞

団体優秀賞受賞に思う

一心無双流居合道剣心会
総師範 山田 文典

創立百二十八周年記念 二〇二三年第六回世界武徳祭及び第六十一回全国武徳祭の成功、大変おめでとうございます。本会に団体優秀賞をいただき重ねて感謝いたします。

コロナ禍により延期を重ねた世界武徳祭が盛大に開催されました。玉座前には、ご逝去された元副総裁桑原先生のご遺影に並んで多くの国際部武道家の遺影

が並んでおりました。この中には、ウイルスと戦い若くしてご逝去された方も多く含まれていることに心を痛めた次第です。一方、今回参加者の中には、見覚えのある懐かしい顔も多く見られ、再開できたことをこの上もない喜びを感じました。当会では、当日に本人や家族にコロナ感染者が出て少ない参加となりましたが、重ねた修練の結果を存分に発揮すべくしっかり演武でき、受賞に結びついたと思います。

特に今回、礼式、姿勢、態度は、国際部武道家の手本となるべく取り組みました。当会は、事前の計画では、国際部武道講習会において居合道指導を担当する予定でしたが、コロナ感染防止のため中止となりました。この話の連絡があったころから、外国人に理解しやすいように工夫を凝らした独自の稽古方法の準備をすすめて来ましたので、第七回世界武徳祭では、是非、実施したたく熱望いたします。濱田代表理事から「閉会式から既に次の修練が始まっている」とのお言葉があり、我々も休むことなく次へのステップをしっかりと昇って行かねばならないと思いました。

先生方、引き続きご指導よろしくお願ひ申し上げます。



※写真撮影時のみマスクを外しています。

団体優秀賞

団体優秀賞を受賞して

虚心流居合剣法宗家
範士八段 山本 楠城

令和五年四月二十九日、三度にわたる延期の後、コロナ禍の克服を期し満を持して開かれた栄えある創立百二十八周年記念第六回世界武徳祭及び第六十一回全国武徳祭において、身に余る個人最優秀賞を賜り恐縮しましたが、さらに団体においても優秀賞を戴くことになりました。これもまさに、代表理事濱田鉄心先生

をはじめとする諸先生方のご厚情の賜であり、また今後の精進への厚い励ましと深く感謝し、御礼を申し上げます。

当流では、ともすればスポーツ化し、剣の理法から外れがちな現今の剣道等の状況に鑑み、特に居合と剣道の両立が肝要と考え、剣の修練による人格の修養とともに、現代剣道と相互補完的な刀法・体さばきの研究・習得、なかならず、「五輪書」に云う「刀は刀の重さで斬る」等の研究に力を入れております。

目標理念の高邁さ、意気込みに比べ、現実の修練の成果は微々たるものという状況ですが、今後も一同和気あいあい、懸命に研鑽に励みたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

有難うございました。

団体奨励賞

団体奨励賞ならびに個人優秀賞を受賞して

神伝円心流 森内 一藏

令和二年より始まったコロナ禍により中止や延期を余儀なくされていたイベントや行事も開催され、静まる様子を見せて来りました。

そこにおいて創立百二十八周年記念第六回世界武徳祭及び第六十一回全国武徳祭が多くの参加者を迎え盛大に開催されました。

これも偏に事務局、役員の先生方をはじめ関係各位の献身によるものであります。

円心流中興の祖、小橋日感宗家曰く「昨日より今日、今日よりも明日上手になり立派な武道家になる様に」との教えを胸に、円心流分家を允許され、神伝円心流として今日まで続けて参りました。

そして本大会に於て、団体奨励賞と個人優秀賞を頂き感慨の極みであります。

この受賞を期に微力ではありますが武道界の発展に精進努力をする決意を新たにいたしました。

結びに大日本武徳会の益々の発展と会員皆様のご健勝ご多幸をご祈念申し上げます。

団体努力賞

団体努力賞受賞して

日本古武道誠慧塾 樋口 友視

七年振りの世界武徳祭。心地よい緊張感を味わいながらも「いつも通り」の道場稽古そのままの状態に演武に臨めた。松宮も素直に刀が振れていた。無事に正座の部の業を抜けたことに感謝しています。ただ三人揃って演武できなかったことは淋しい思いでした。

演武団体最後の七班の検証員（検証席）を担当させていただきましたが、背後に人（海外からの演武者の方々）の気配が感じられないくらいに、整然とした静かな演武を観る態度がすばらしかったと感心しました。彼等に恭敬の念を感じました。これは私たちが学びたい姿勢であると大いに反省し、また勉強させられたことです。恥入ることばかりです。

開会式、閉会式でたくさんのお褒めをいただきありがとうございました。大会の役員、スタッフの皆様のご努力に感謝申し上げます。ご苦労さま、そしてありがとうございます。

個人最優秀賞

個人最優秀賞を受賞して

虚心流居合剣法宗家 山本 楠城
範士八段

令和五年四月二十九日、創立百二十八周年記念第六回世界武徳祭及び第六十一回全国武徳祭において、図らずも個人最優秀賞を受賞致しました。浅学菲才のわが身としては、分不相応とは存じますが、これもひとえに代表理事濱田鉄心先生をはじめとする諸先生方のご厚情の賜と深く感謝し、御礼を申し上げます。思い返せば、三年三度の延期を経てコロナ禍の克服を期し満を持して開かれた

この栄えある世界武徳祭において、「祓いの儀」を仰せつかることは身に余る光栄であります。膝を痛めている身からしてもその責任の重さに身の引き締まる思いでありました。

結局、無の境地には遥かに至りませんが、驚懼疑惑の四戒に惑わされず雑念のない境地を目指す肝要と心得て、未熟ながらひたすら澄んだ心で気力氣迫を充実させることを心がけ、演武させていただきました。

行き過ぎた個人主義と価値観の多様化を招く時代の潮流の中で、文武一徳の趣旨に則り、武技の研磨と共に人格を陶冶し、徳育に貢献せんとする大日本武徳会の存在、その活動は比類なく貴重です。大日本武徳会の益々の発展を祈念するとともに、今後さらなる研鑽に励む所存です。
有難うございました。

個人優秀賞

個人優秀賞・団体努力賞を頂いて

日本伝千葉一心無双流居合兵法 師範 村上 亨

第六回世界武徳祭・第六十一回全国武徳祭に於いて個人優秀賞・団体努力賞を頂き心より厚く御礼申し上げます。

コロナ禍の中、何とか最高の演武をと連日稽古に励んでおりました。

仕事の都合で千葉に転居した関係上、奥居合は、恩師故十一代宗家毛利友彦元春先生の七ミリの動画を見ながら、一拳手一投足に目を凝らしての稽古でありました。動きが早く、体得するのに一年近くかかりましたが、やっとの思いで今回の武徳祭に間に合うことが出来ました。そして栄えある賞を頂き感無量であります。既に研鑽の道は始まっており、更なる技と精神の向上を目指し、会員一同と稽古に励んでまいりたいと思っております。

杉原陽一六段にも個人努力賞を頂き有難う御座いました。

この度の武徳祭に際し、代表理事及び理事の先生方、事務局の方々のご苦勞に感謝申し上げますと共に、一般社団法人大日本武徳会の更なる発展を祈念いたします。

個人優秀賞

個人優秀賞を頂いて

虚心流居合剣法 山本 勇

この度の第六回世界武徳祭及び第六十一回全国武徳祭が滞りなく終了致しましたことを心からお喜び申し上げます。本大会開催の意義、重要性は計り知れなく大きなものがあると感じております。今回、本大会に剣道形及び団体の居合演武に参加させていただいたことはこの上ない喜びであり、更には個人優秀賞までも頂き、大変恐縮致しているところであります。本当にありがとうございます。

本大会で強く感動したことがあります。それは国際部メンバー諸氏の氣迫と技前の目覚ましい進歩です。特に居合においては腰の据わり、手の打ちの柔らかさ等多くの点に多大の進歩があるとお見受けしました。

顧みて、本家日本の我が身に倣いはないか、甘さはないかとの思いが通り、初心に戻り研鑽に努めるとともに、真の武道を正しく伝えるべく益々の精進に励まなければと心を新たにしました次第です。

個人優秀賞

個人優秀賞を受賞して

日本武道空手協会 二又 静明

創立百二十八周年記念・第六回世界武徳祭及び第六十一回全国武徳祭開会式に於いては彬子女王殿下より、お祝いのお言葉を賜り、昭和の日には、日本国が世界に誇る古武道の技が披露された。東伏見慈晃総裁、濱田鉄心代表理事が入場されると厳かな武徳殿内は割れんばかりの拍手を雄叫が鳴り止まなかった。太鼓の合図で鍛え上げた熟練者による素晴らしい演武が始まりました。私は沖繩古武道の型、浜比嘉の釵を演武しましたが、無事に終りほっとしました。閉会式では、

予期せぬ個人優秀賞をいただきまして、まだまだ努力をしなければいけないと肝に銘じました。振り返りみれば空手道歴七十有余年の歳月が流れていました。今日、武徳会の一員として在籍できている事を誇りに思っています。ご指導有難うございました。

個人努力賞

個人努力賞を受賞して

一心無双流居合道剣心会 中野 秀人

今般、大日本武徳会創立百二十八周年記念第六回世界武徳祭・第六十一回全国武徳祭において、錚々たる先生方とともに個人努力賞を授与されたことは、誠に光栄の至りです。特に今回は、世界の武道家が武道の聖地である旧武徳殿に参集する世界武徳祭という場での受賞となり感激も格別です。

私は、今回の演武にあたり、正しい呼吸と正しい姿勢・目付け、無駄な力みがない中であつてここぞというところでの鋭い体捌きと斬撃、演武の終始を通して瞬きもせず敵に対峙する集中力を切らさないこと等を意識いたしました。

こうしたことは、特に最近半年ほど、自ら主な課題と意識して修練を重ねてきたところであり、また、指導を任されている道場において仲間とともに取り組んで来たことでもあります。その稽古の結果が、今回の努力賞に繋がり、当会の団体優秀賞受賞に結びついたのであれば、これほど喜ばしいことはありません。

とはいえ、これで目標に到達したとは、まったく考えておりません。

目指すべきは、山麓から望む遙かな高みで雲に覆われた山頂のようであり、私の歩みで果たして辿り着けるものなのか、まったく自信がないというのが正直な実感です。しかし、ひとたび頂上を目指して歩み始めた以上、決してその頂上を目指す歩みを止める訳にはいかないと堅く心に決めていきます。

このような思いの中、あらためて今回の武徳祭において示された国際部の先生方の演武や観覧の際の態度あるいは開会式での立ち居振る舞い・礼節を思い返すと、先生方の真摯な姿勢からは、私自身が今後、堅持していくべき気構えを見出すことができます。

そうした意味もあり、今回の武徳祭は私自身にとって、誠に意義深いものとなりました。世界武徳祭は、世界の武道家と日本の武道家が互いに磨き合い、共に成長する、誠に得難い場です。

私は、次回の世界武徳祭での演武に向けて、今回戴いた個人努力賞に恥じないよう、さらに精進を重ねてまいりたいと考えています。



第六回世界武徳祭、 第六十一回全国武徳祭に参加して

一心無双流居合道 剣心会
錬士 六段 小田 尚幸

この度は管理運営委員を拝命し、前日の打ち合わせ、開会式から参加しました。開会式から閉会式までの凜とした雰囲気にはとても身が引き締まる思いでした。日頃の生活とは異なる空気に触れることができるのは、このような大会ならではのと思えます。国際部の皆様の熱量にも大いに感銘を受けました。

このような中でいつもと変わらぬ心境にて形を行うことを心がけて演武に臨みましたが果たしてこの熱量に負けないものが出せたかどうか。これについては今後、どこまでも自分の至らぬところと向き合っていくしかないようです。

今回は開会式に参加した際には他流派の先生がたのお話をお聞きできたこともとても貴重な経験でした。日々の生活もある中、ままならぬことも多いのですが失礼がなければまた他流派の先生方のお話を差支えない範囲でお聞きしたいと思います。次回の大会で再びお会いすることができるのを楽しみに、日々の稽古に励みたく思います。

第六回世界武徳祭・ 第六十一回全国武徳祭に参加して

北陸連盟 修童館 荒川 朋範

令和五年四月二十九日に開催された第六回世界武徳祭・第六十一回全国武徳祭に参加させて頂きました。

国内外の多数の武道家の方々が集う、私にとってはデビュー戦となりました。今回は、私は、演武開始と終わりを合図し、全体を整える役目を受けました。視野が狭くなりがちな私にとって、なかなか難しい感じでしたが、皆様方のご協力もあり、無事にこなすことができました。

本大会では、多数の演武を拝見し、大変参考となり、良い刺激となりました。国内外の方々に引けを取らないよう、稽古を重ね、技を磨き、武道家として自分に誇りをもてるよう精進していきます。

「残心」の重要性

管理運営委員長から思う

一般社団法人大日本武徳会理事
一心無双流居合道剣心会 総師範 山田 文典

大日本武徳会創立百二十八周年記念 二〇二三年第六回世界武徳祭第六十一回全国武徳祭が盛会に開催できましたことを心からお祝い申し上げます。また、今回、管理運営委員長の重任を仰せつかり、諸先生、参加皆様のご協力のお陰で事故なく目的を達成できましたことに厚く御礼申し上げます。

延期を重ねて参りました世界武徳祭は、参加者が前回より大幅に下回りはいたしましたが、コロナ禍を乗り越えて進む本会の活気に満ちた大会になったと思います。

今回、本会執行部の一員として国際部の入国から一連の行事として四月二十五日から四月三十日までの間、青龍殿青不動明王奉納古武道演武大会、伊勢神宮奉納古武道演武大会、世界武徳祭開会式・祝宴、世界武徳祭・全国武徳祭、国際部錬成大会、お別れレセプションに参加することができ、素晴らし経験をする事ができました。

これは、本会の目的である日本伝統武道の保存・継承と国際友好親善に向けた取組みであり、伝える我々とそれを学ぼうとする外国人武道家の心が一体となったと感じました。

特に本会が重点を置く「礼節」は、演武はもとより、事前・事後全てに及び、熱心な彼らの取組み姿勢には感動する場面が多々ありました。

彼らとともに過ごした集大成といえる世界武徳祭において、ほんの一部の日本人武道家がどう感じたかを思うと残念な気持ちになりました。このことは、私の大きな反省事項です。

世界武徳祭は終わりましたが、第七回世界武徳祭は、準備が既に始まっております。

尚、一層のご精進をお願い申し上げます。
先生方、引き続きご指導、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

青龍殿国宝青不動明王奉納古武道演武大会





第六回世界武徳祭記念「伊勢神宮 奉納古武道演武大会」実施結果報告書

国際部 坂本 俊一

この度、令和五年四月二十七日、第六回世界武徳祭記念行事の一環として、諸外国の参加者による「伊勢神宮奉納古武道演武大会」が初めて開催されました。早朝の伊勢神宮は、素晴らしく晴れた青空の下、清々しい風が心地よく、我々を心から歓迎してくれているようでした。

そのような中、総勢二百四十人余りの外国人が整然と列をなし、五十鈴川における手水に向かう行進は、早朝から参拝されていた一般の観光客の方々を震撼させるほどの真剣さと厳かさとして気迫に満ち溢れたものでした。参加者の期待と取組姿勢が如実に表れた行進だったと思います。

手水の後は、参集殿での開会式典が執り行われ、ここでAグループとBグループに分かれました。まずは、Aグループが参集殿にける奉納演武に臨み、Bグループは神楽殿に移動して特別大御神楽のご祈祷神楽を受けました。

Aグループの奉納演武は、山田先生の祓いの儀に始まり、米国のカール・ロングによる居合道など七人の奉納演武、最後に上村先生による納の儀が能舞台で行われました。

Bグループは、神楽殿において合計四曲の御神楽を見学させていただきました、その舞からは歴史の奥深さを感じることができました。

その後、両グループは交代して、Bグループが奉納演武を行いました。Bグループの奉納演武は、平先生の祓いの儀、カナダのケン・タラックによる空手道など七人の奉納演武、渡邊先生の納めの儀が執り行われました。

奉納演武は、後に演武者から「これまでの演武で最も緊張した。」「御正宮の方から柔らかい風が吹いてきて神秘的だった。」との声が聞かれるなど、演武者にとってもこれを目の当たりにした見学者にとっても忘れることのできない経験になったものと思われました。

参集殿で昼食を取った後、再びグループに分かれ、御正宮での御垣内参拝と荒祭宮の参拝を行いました。各グループ百人以上の外国人が一堂に参拝するという姿

はおそらく伊勢神宮でも初めてのことだったと思います。何より皆が整然とまた肅々と参拝する姿は、日本人の集団ではもはや見ることでできない純粹さを感じることができ、後に神宮で担当してくださった方から「また来年もよろしくお参りくださいますよう。」との言葉をいただいたことは、今回の奉納演武大会が成功裏に終わったことの証だったと思われれます。

運営面での反省点をしっかりと検討して、次回の世界武徳祭では参加者の皆さんにより素晴らしい経験をしていただけるよう、早速準備を始めなければならぬと考えさせられるほど、意義のある素晴らしい奉納演武大会でした。代表理事をはじめ準備の段階からご苦勞していただいた事務局や役員の方々に深くお礼申し上げます。ありがとうございました。

伊勢神宮内宮奉納古武道演武大会に 参加して

日本古武道 辰慶館 渡邊 祥正

悠久の歴史を刻む伊勢の皇大神宮に於いて、伊勢神宮内宮奉納古武道演武大会が令和五年四月二十七日、大日本武徳会創立百二十八年ならびに第六回世界武徳祭を記念して、世界十八カ国から三百有余名の国際部会員が参集して開催されました。大日本武徳会本部理事・役員ならびに国際部会員は、万世一系を貫く日本皇室の御祖先の神と仰ぎ、日本国民の大御祖神と崇められる天照大御神を祀る皇大神宮に参詣し、内宮への入口、神域を流れる清流五十鈴川において心身を浄め、特別大々神楽を奉納されました。今大会は、「国際親善、国際的な相互理解、そして世界平和に貢献する」との基本方針を掲げております。聖寿の萬歳と皇室の弥栄、国家国民の繁栄と安寧、大日本武徳会の隆昌発展、そして結ばれる世界各国の武道の友の平安と世界武徳祭の成功、更には北朝鮮のミサイル発射、ロシアによるウクライナへの悲惨な侵略戦争をはじめ国際紛争の即時終止、また国内外の自然災害により被害に遭われた方々の一日も早い復興を併せて祈られました。続いて演武大会が参集殿において催され、国際部各国代表の師範による演武の奉納がなされ、畏くも納めの儀を鄭重にお仕えさせていただきました。奉

納演武終了後、大日本武徳会本部理事・役員ならびに国際部会員一同は、春の爽やかな空気に木漏れ日が差す、凜とした空気の中、御正宮瑞垣内にて正式参拝なされました。国際部会員は、日本の伝統文化、高潔なる武徳の精神と厳正な規律のもとに会員個々人が自ら目標を持ち、その目標の実現に日々修練を重ねる自主自立の気風の下で武道家としてのあるべき姿を高い帰属意識をもって体現に努めておられ、世界各国の会員が宗教、信条、国籍、世代を超えて共有し、世界平和の礎、国際親善に寄与しているものと実感いたしました。また、西洋人に日本の独自文化である武士道が西洋的な価値観が受け入れられていることで失われていく美徳を憂いているような感覚も覚えました。日本国内の武道人口が減少傾向にあります。近年ヨーロッパで武道が盛んになってきており、世界的に見ると武道人口は増加傾向にあります。武道の理念である人間形成を目的とすることが受け入れられ、心身の鍛錬を通じて自己を高めていく武道の本来の良さをしっかりと伝わっているからこそその武道人口が増えているものと考えられます。伝統武道の眞の継承者として、日本古来の尚武の精神に由来する心技一如の教えに則り、礼を修め、技を磨き、身体を鍛え、心胆を錬る武道の特性をしっかりと説くことが我々の使命と実感いたしました。このたびは大会参加の御許しを賜り、心から御礼申し上げます。

伊勢神宮奉納古武道演武大会







令和五年度 第六回世界武徳祭・ 国際部錬成大会報告

北陸連盟 修童館 長田 順一

武徳会会員の皆様方に謹んでご報告させていただきます。令和五年四月二十八日（四月三十日）に開催されました世界武徳祭・国際部錬成大会の感動をお伝えしたいと思います。

記念大会で有りますので会報「武徳」には詳細に開会式・武徳祭・国際部錬成大会の記事が載っております。開会式で数多くの諸先生方が表彰されました。今日までの武徳会運営にご尽力頂いた諸先生方、武徳栄誉賞として九段・十段保持者の諸先生方大変な表彰式でした。私の人生経験の中で初めての体験でありました。この式典を企画運営されました先生方大変ご苦勞様でした。そして心よりのお礼を申し上げます。「アリガトウ・ゴザイマシタ」

コロナ禍で順延されていた大会です。待ちに待った大会です。国際部の皆様と二十八日の開会式並びに表彰式に参加いたしました。参加者は会場の都合もあり本部役員大会運営関係者そして長年大日本武徳会にご尽力頂いた先生方が参加されました。

海外の参加者も諸般の事情で参加されない国もありましたが、これが最後と満を持してのご参加の方々が多数おいでました。勿論、日本に初参加の方々もおいでます。

式内容も、数年越しの思いを込めた素晴らしい内容でした。過去の世界大会の中でも最高の演出です。大会会長 東伏見慈晃総裁の開会式辞から始まり京都府知事・京都市長・そして特別ご来賓の皇族彬子妃もご参加で緊張の開会式です。色々な制約があるなか、ご参加の方々は会場の雰囲気を楽しんでおいでます。

何よりも武徳会会員が会場の出入り時の礼・来賓スピーチ時（通訳対応）・表彰セレモニーでの対応が見事でした。私自身も特別の式典に参加しているという自覚を持ち、背筋を伸ばし式典にのめり込みました。スピーチには大きな拍手ジョークには笑い、そして久しぶりにお会いした高齢の武徳祭不参加の諸先生方へのご挨拶、近況報告させて頂きました。

一九九八年、第一回世界武徳祭がアメリカ合衆国ノーフォークで開催され

二十五年の歴史を刻みました。

東伏見慈晃総裁の式辞ご挨拶にありました「技と精神を磨く」「礼節を尊び徳をもって武を修める」という武徳会の武道の精神が大きく花開いた大会であったと思います。

最後になりましたが、私も濱田鉄心代表理事より理事長賞を頂きました。誠にありがとうございました。後しばらくは武徳会会員として大会参加に向けて頑張りたいと考えます。

本部先生方、全国の先生方宜しくお願い致します。





第六回世界武徳祭記念さよならパーティーは、四月三十日午後六時半よりウエスティン都ホテル瑞穂の間に於いて、本部理事・役員ならびに国際部から三百名余りの皆様にお集まりいただき、盛大に開催されました。国際部アメリカ支部キム・ベイラー氏の司会進行により、ジェフ・ウイリアムズ氏が通訳を務め、東伏見慈晃総裁のご挨拶、本部より上村雅彦理事、中田浩大理事、坂本俊一監事、国際部よりカール・ロング範士、ケン・タラック範士、ステイブ・メイハン範士による乾杯のご発声で祝宴となりました。

学校法人瓜生山学園京都芸術大学恵炎による和太鼓演奏があり、大盛況のうちに世界武徳祭の一連の記念行事がフィナーレを迎えました。国際部の会員は、お互いの健闘を称え合い、久々の再会に近況などを語り合いながら親睦を深め、別れを惜しみました。最後に濱田鉄心代表理事が謝辞を述べ、さよならパーティーは閉会となりました。



第六回世界武徳祭記念 さよならパーティー開催報告

渡邊佳代子

大日本武徳会沖縄県支部の変遷について

大日本武徳会沖縄県副支部長
 範士八段 早坂 義文
 (金硬流唐手・沖縄古武術十段範士)

私が大日本武徳会に入会し、初めて京都大会で又吉真豊十段範士の名代で、沖縄古武術鎌の手と白鶴拳の形を演武したのが、昭和六二年四月二十九日でした。

その年、沖縄県支部が正式に承認され大日本武徳会の支部となり、又吉真豊先生が支部長になりました。

沖縄では、戦中昭和十六年より活動が停止し、戦後米国統治下のため、戦後の大日本武徳会に加入することは、出来ませんでした。

大日本武徳会に加入することは、又吉真豊先生の悲願でありました。

その理由は、真豊先生の実父又吉真光翁が、明治四一年七月京都武徳殿において、大日本武徳会柔剣道青年大会に初参加、大会に先立ち徳田安貞が唐手演武、富名腰義珍が唐手、又吉真光がトゥンクワー術を演武しました。

更に、大正四年御大典記念祝賀演武会において富名腰義珍が唐手形クーシヤン



昭和六二年四月二十九日 大日本武徳全国武徳祭 京都武徳殿 当時早坂錬士六段 沖縄古武術 鎌の手



昭和六二年六月五日 大日本武徳会沖縄県支部 支部長 範士 又吉真豊先生

クー、又吉真光が古武道形トゥンクワー術と鎌術を演武しました。

大正五年京都武徳殿大日本武徳会設立二十周年記念大演武大会において、富名腰義珍が唐手形クーシヤンクー、又吉真光が古武道形トゥンクワー術を演武しました。

又吉真光は、幼少より家伝の唐手と琉球王朝時代に稽古されていた武器術を又父真珍より教授され、更にヌンチャク術やトゥンクワー術等を北谷村野里の伊礼雲親上(地頭代真牛)に学び、具志川村の武士安慶名直方(具志川照屋小)より權術、鎌術、釵術などを学びました。

そして、明治三七年北海道を経て、樺太、満州、上海、福州、安南などを武者修行の旅を続け、樺太、満州では、手裏剣、投縄等を習得し、上海、福州、安南では、少林武術を習得しました。福州において金硬老師から南少林拳法を伝授され、昭和の初めの頃まで何度も渡来し、拳法の極意を伝授されました。

福州では、茶商具賢貴と強い絆が出来、清朝崩壊の大正元年に琉球へ渡つてきました。

具賢貴は、福州で白鶴拳の正統継承者で、沖縄の空手界に大きな影響を与えた武術家です。

大正十年皇太子(昭和天皇)が沖縄を初めて訪問された際、御前演武記念において古武術の演武、唐手を宮城長順が行い、富名腰義珍が師範学校学生十名の集



宮城長順先生
 不明
 喜屋武朝徳先生
 具賢貴先生
 又吉真光先生



又吉真光先生

団演武を指揮しました。

昭和八年二月二六日大日本武徳会本部より、沖縄県支部に昇格し、同時に唐手道が正課になりました。

昭和一四年六月一七・一八日の二日間大日本武徳会会長林十郎陸軍大将以下関係者を招き大日本武徳会沖縄県支部武徳殿開殿式が挙行されました。

この時、空手道の演武が行われ、二十二名の沖縄空手会の重鎮な空手家年齢順に形を演武しました。

この演武の中に、沖縄の古武道家を代表して、又吉真光、一族の喜屋武真栄そして添石良富らが古武道の形を演武しました。

残念ながら沖縄古武道は、武徳会の古武道としての正課にはなりませんでした。昭和一五年七月大日本武徳会本部において沖縄空手界から錬士號が授与されることから又吉真光を引率責任者として、その授与式に参列した時の記念写真が、

神奈川県川崎市在住の真光先生の娘が所有していたことから判明しました。又吉真豊は、真光の長男として大正一一年に那覇市で生まれ、幼少期を北谷村で育ち、喜屋武朝徳の元で少林流の唐手の指導を受け、更に城間眞繁らに昔手の唐手の指導も受けました。

実父真光の厳しい家伝の武術修行と鶴拳を学ばせるため、呉賢貴に預け、全伝を受けるまで修行させられました。

終戦後の昭和二二年真光は他界し、翌年沖縄に生存帰還しました。

沖縄では、家伝の武術を広めるため活動し、社団法人全沖縄古武道連盟初代会長として全世界に沖縄の古武道を広めました。

昭和六二年念願の大日本武徳会沖縄県支部が認証され、初代支部長として全国武徳祭に積極的に参加し、大日本武徳会のメンバーとして米国へ派遣され、沖縄の武術を演武しました。

平成九年又吉真豊翁は、永眠しましたが、棺の中には武徳会のブレザーと範士バッチを身につけ茶毘に付されました。

真光翁のなしえなかった武徳会の沖縄古武道としての正課を息子真豊翁は、実現、そして、武徳殿での演武、沖縄県支部長として活動してきました。

我々門弟一同は、現在も大日本武徳会の会員として沖縄の武技を継承、発展するため日々鍛錬に励んでおります。



昭和一五年七月
大日本武徳会京都武徳殿
空手道錬士號授与式記念

富名腰義家先生
長嶺将真先生
金城兼盛先生
新里仁安先生
小西康裕先生
山城善光先生
山口剛玄先生
比嘉世幸先生
又吉真光先生
鈴木文子先生
宮里 浩先生

大日本武徳会沖縄県支部設立記念演武會空手道型	
一、部	空手道型
二、工	空手道型
三、中	空手道型
四、中	空手道型
五、中	空手道型
六、中	空手道型
七、中	空手道型
八、中	空手道型
九、中	空手道型
十、中	空手道型
十一、中	空手道型
十二、中	空手道型
十三、中	空手道型
十四、中	空手道型
十五、中	空手道型
十六、中	空手道型
十七、中	空手道型
十八、中	空手道型
十九、中	空手道型
二十、中	空手道型
二十一、中	空手道型
二十二、中	空手道型
二十三、中	空手道型
二十四、中	空手道型
二十五、中	空手道型
二十六、中	空手道型
二十七、中	空手道型
二十八、中	空手道型
二十九、中	空手道型
三十、中	空手道型
三十一、中	空手道型
三十二、中	空手道型
三十三、中	空手道型
三十四、中	空手道型
三十五、中	空手道型
三十六、中	空手道型
三十七、中	空手道型
三十八、中	空手道型
三十九、中	空手道型
四十、中	空手道型
四十一、中	空手道型
四十二、中	空手道型
四十三、中	空手道型
四十四、中	空手道型
四十五、中	空手道型
四十六、中	空手道型
四十七、中	空手道型
四十八、中	空手道型
四十九、中	空手道型
五十、中	空手道型
五十一、中	空手道型
五十二、中	空手道型
五十三、中	空手道型
五十四、中	空手道型
五十五、中	空手道型
五十六、中	空手道型
五十七、中	空手道型
五十八、中	空手道型
五十九、中	空手道型
六十、中	空手道型
六十一、中	空手道型
六十二、中	空手道型
六十三、中	空手道型
六十四、中	空手道型
六十五、中	空手道型
六十六、中	空手道型
六十七、中	空手道型
六十八、中	空手道型
六十九、中	空手道型
七十、中	空手道型
七十一、中	空手道型
七十二、中	空手道型
七十三、中	空手道型
七十四、中	空手道型
七十五、中	空手道型
七十六、中	空手道型
七十七、中	空手道型
七十八、中	空手道型
七十九、中	空手道型
八十、中	空手道型
八十一、中	空手道型
八十二、中	空手道型
八十三、中	空手道型
八十四、中	空手道型
八十五、中	空手道型
八十六、中	空手道型
八十七、中	空手道型
八十八、中	空手道型
八十九、中	空手道型
九十、中	空手道型
九十一、中	空手道型
九十二、中	空手道型
九十三、中	空手道型
九十四、中	空手道型
九十五、中	空手道型
九十六、中	空手道型
九十七、中	空手道型
九十八、中	空手道型
九十九、中	空手道型
一百、中	空手道型

昭和一四年六月一七・一八日
大日本武徳会沖縄県支部武徳殿開殿式
空手道演武プログラム



沖縄県那覇市

大日本武徳会沖縄県支部武徳殿